

# 絶めつ危惧種 シナイモツゴを救え



所要時間	1～2時間
対象学年	小学生～中学生
関連事項	淡水魚水族館を見学

## ～概要～

生息環境の悪化と、国内外来種のモツゴに押されて昔からこの地域に普通に生息していたシナイモツゴが激減し、絶滅が危惧されています。飼育体験を通して、シナイモツゴのすむことができる環境を取りもどし、生物と環境とのかかわりについて探っていきます。

妙高市理科教育センター

# 1 活動のわらい

- ・川や小川、ため池などに昔は普通に生息していたシナイモツゴが少なくなっていることを知り、育てて増やしていこうとする気持ちを高める。
- ・シナイモツゴの飼育方法について知り、飼育し、環境をつくって放流していく計画をたて実行していく。

## 2 活動場所

- ・理科実験室内⇒学校へ、地域へ



シナイモツゴの稚魚

## 3 準備品

- ・団体・個人で用意するもの⇒観察ノート、筆記用具
- ・理科センターにあるもの：小型観察ケース、ルーペ、双眼実体顕微鏡、バット、ピンセット、図鑑
- ・卵も分けてやることできる。  
※事前にシナイモツゴが産卵しているかどうかは、理科センターに確認しておくこと。5月頃から8月ころまでが産卵期。

## 4 活動内容

活 動 内 容	
はじめ	<p>① 活動の目当てを各自で確認する。 地域の川や池、水田や用水には、たくさんのシナイモツゴがすんでいたが、最近では少なくなってきていて、妙高市内でも山間の一部のため池に細々と生息しているだけになったことや、その原因についての話を聞く。</p>
活動	<p>① どのような環境の所にすんでいるか。何を食べているのかなど図鑑で調べる。飼育するのに必要な物を書き出して、準備する。</p> <p>② シナイモツゴを育てよう ・水そうの中に、シナイモツゴがすめるような環境を整える。シナイモツゴの卵を観察する。 ・どのような形をしていて、どのような所にすんでいるか、エサは何を食べているのかなど、図鑑で調べる。 ・小型観察水そう      ・双眼実体けんび鏡      ・網      ・ピンセット ・参考図書や図鑑など自由に使ってよい。</p> <p>③ 今後の飼育していく計画をたてる。 ・理科センターの水槽でシナイモツゴが産卵する時期に、卵を分けてやるので、育てて増やしていこう。</p>
まとめ	<p>① 卵を持ち帰って世話してくことの意義を知り、意欲を確認する。</p> <p>② 後かたづけ、使用した物品を洗って、洗い物入れの中に伏せておきます。ごみを拾って始末しましょう。</p>